

4月28日（火） <2015年紀の国和歌山大会サポートボランティア>で必要になる『手話』について、一般社団法人和歌山県聴覚障害者協会 事務局長の櫻井さんが講師として来られました。



櫻井さんからは『聞こえない人は目で見て初めて情報が入る。だから耳の聞こえる人よりワンテンポ遅れる。前に電車の事故があった時に耳の聞こえない人のために事故があったことを一生懸命教えようとしてくれた方がいた。聞こえないと、情報がすぐに入らないので右往左往する』と手話の通訳を通して教えていただきました。



『手話をする上では表情が大切。手話で『大丈夫ですか?』と聞いていても、その表情が無表情だと本当に心配しているようには見えない。耳の聞こえない人は、そういうのをすごく気にする』とアドバイスを受け、手話を正確にするのが大事ではなく、相手のためにできる事からやるのが大事なのだと受け止めました。



←サポートボランティアの授業の様子を取材にテレビ和歌山の方も来られてました。